

## 機関誌編集委員会(第9回)議事録

(令和元年6月25日(火) 楽友会館 午後4時半から6時)

出席 : 藤井義博(藤女子大学)、守屋達美(北里大学)、安宅勝弘(東京工業大学)、吉川弘明(金沢大学)、久保田 稔(関西学院大学)、工藤 喬(大阪大学)、工藤欣邦(大分大学)

欠席 : 中村準一(鳥取大学)

開催に先立って、川村代表理事より、機関誌編集委員会、ウェブ情報委員会、国際連携委員会、研究倫理委員会の委員に対し、協会としての倫理指針、利益相反に関する包括的な考え方が提示された。今後、研究倫理委員会が取りまとめの上、協会全体で共有する案が示された。

引き続き、吉川委員長を議長として開会。議事日程に従って議事を進行した。

### 議 題

1. 三木事務員より機関誌56(2)編集について報告があり、全員異議なく了承した。
2. 「CAMPUS HEALTH 57(2)」(2020年5月発行予定)の特集テーマについて  
国立大学法人保健管理施設協議会 学生の健康白書に関する委員会 石黒 洋委員長(名古屋大学)より、学生の健康白書を取り上げたいとの意向が事務局に寄せられたことが報告され、次号のテーマとして適当であるとの合意が得られた(資料1)。  
委員より、2015年の調査の結果を開示するのか、2020年の調査に向けた調査案を示すのかとの意見が出され、事務局より問い合わせをすることになった(吉川から、石黒委員長に問い合わせ中)。  
また、今後のスケジュールとして、8月に各論文タイトルと執筆者を学生の健康白書に関する委員会で取りまとめ、機関誌編集委員会で検討承認後、10月に執筆者に事務局より依頼、原稿の締め切りは、2020年1月とすることで、全員意義なく了承した。
3. CAMPUS HEALTHのJ-STAGE公開について  
眞継事務長より、J-STAGE登録フローとそれに係る経費、事務作業等が提示された。また、昨今の学術誌をめぐる不正に対する対応の困難な事例についても、参考意見として提示された。審議の結果、現時点では、J-STAGE公開に係る事務作業、論文の内容等に関するクレームに対応できる十分な体制がないこと、本誌の目的としての会員の知識向上、情報共有は現体制でも十分に保たれていることより、J-STAGE公開は無期延期とすることになった。  
なお、J-STAGE等の情報ポータルサイトに対するCAMPUS HEALTHの公開に関しては、編集委員会の検討課題として残すこととした。
4. 査読の指針について  
査読を依頼された会員より、査読の指針が必要であるとの意見が出されたため、案を作成し、内容に関しては、さらに委員会においてメール会議等で検討の上、合意を得たうえで運用することとした。
5. そのほかの議題について  
時間の都合により、他の用意された議題については審議ができなかったため、各委員が持ち帰り、必要があればメール会議等で審議をすることとした。
6. 会員専用ページのパスワード変更について(報告)  
昨年の委員会で提案のあった会員専用ページパスワードの変更につき、郵送にて会員に通知したうえ、2019年6月10日午後1時に、パスワードを変更した旨、事務局より報告があった。 以上

CAMPUS HEALTH 編集委員会 殿

CAMPUS HEALTH57 (2) (令和 2 年 5 月発行予定)  
特集テーマの提案について

テーマ：学生の健康白書

#### 特集の目的

「学生の健康白書」は 1984 年に第 1 回調査が行われ、その後は 1990 年から 5 年毎に実施され、次回は「学生の健康白書 2020」が予定されています。フィジカルヘルスについては、主に、各大学で実施されている定期健康診断のデータ（体格、血圧、胸部レントゲン、尿検査、心電図、生活習慣など）を集計しています。国立大学法人保健管理施設協議会が作成していますので、対象は国立大学の学生に限られますが、例えば 2015 年の白書では学部生と大学院生を合わせて約 44 万人のデータが集まっておりこの年代の若者の健康状態を表す貴重な資料になっています。しかしながら、データを集計し記録として残すことを目的とする白書として作成されていますので、必ずしも読みやすいとは言えませんし、十分には活用されていないように思います。そこで、この度は、大学生の保健管理に携る皆様に「学生の健康白書」をよく知っていただくこと、蓄積されたデータを読みやすくまとめることを目的として、特集を組んでいただくよう提案させていただきます。また、将来にわたって健康診断の項目をどうしていくかを考えるよい機会になるように思います。メンタルヘルスについては、生活アンケート、メンタルスクリーニングおよび精神健康相談の実態、休退学・留年・自殺の調査といった貴重なデータが集積されており、学生支援をされている皆様にとっても参考になると思います。

予定している論文タイトル（仮）は以下の通りです。  
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

はじめに
疫学データとしての健康白書
大学生の体格の変遷
大学生の血圧と脈拍
胸部レントゲン撮影の意義
尿検査の意義
心電図検査の意義
生活習慣問診の意義
血液生化学検査の意義
健康診断の標準化に向けて
学生生活アンケート調査
メンタルスクリーニングの意義
精神保健心理相談の実態
大学生の休退学、留年
大学生の自殺

2019 年 6 月 13 日

一般社団法人国立大学法人保健管理施設協議会  
学生の健康白書に関する委員会  
委員長 石黒 洋  
副委員長 安宅勝弘